

<今日の説教のポイント ルカによる福音書2章22～38節>  
信仰深い人々が登場。それぞれの姿から学べることは？

①ヨセフとマリアの場合 — 神様と聖書への真の従順とは？

ヨセフとマリアがしたことは、イスラエルの神の民がずっと守って来た律法(24, 27, 39節、レビ記12章)を守る行為です。大事な点は、それは神様への感謝を示す行為であったということです。「律法を守る」とは本来そのような行為なのです。つまり、「守らないと罰せられるから行う」のではなく、「神様に感謝して喜んで行う」行為なのです。今の私たちはここに記された内容は行っていません。しかし、それは聖書を守っていないのとは違います。今の私たちはどのような仕方でも神様への感謝を示すのかを、さらに真剣に、聖書全体、特にイエス様の福音から考えて行っているのです。私たちとの共通点もあります。神様に感謝してなす最初の応答の行為として神様の御前(神殿、教会)に出て感謝を捧げていることです。恵み深い神様が、「ここで私を覚えるように」と私たちのために教会の礼拝を設けて下さったのです。自分が出たい時に出たらいいのではない、礼拝に集う意味と理由がここにあります。

②シメオンの場合 — 彼が指示した内容こそが大事！

シメオンについては、聖霊のことが何度も出て来ます(25, 6, 7)。しかし大事なことは、そのシメオンが示したのが、この幼子こそが「万民のために整えて下さった救い、異邦人を照らす啓示の光」(31-32)であるということです。イエス・キリストが大事なのです！ 私たちがこのことを理解でき、受け入れることができるようになったなら、私たちにも聖霊が注がれているのです(1コリント12:3)。

③女預言者アンナの場合 — 人生の意味が分かるために

アンナについては、結婚生活7年で夫と死別したという説明が目につきます。かわいそう？ いいえ、ルカが伝えたかったのは、そのシメオンがその後神様から離れずに生き(37「**神殿を離れず**」)、救い主の誕生を人々に示す役割が神様から与えられた、ということでしょう。今はもっと人生は長くなっています。アンナが神を讚美して喜び、幸せに包まれたイエスさまの誕生(38)。この喜びに出会い、この喜びの中を生きるのに、遅すぎるということはないのです！